

居場所                   へた地                   都市計画道路  
よりみち               地域コミュニティ   生活動線内

## 1. 背景

### 1.1 現代社会による居場所とは

現代は、情報化社会や効率と目的性を優先してきた社会によって、家庭や職場・学校以外のコミュニティが閉ざされ、まちの賑わいの低下や孤独・孤立、不登校の増加といった問題が生じている。

これらの問題の背景には自宅や学校・職場のような決められた目的や役割を伴う場所のみのコミュニティしかないため、心のよりどころとなる場所がないことが原因ではないだろうか。

したがって、自宅や職場・学校以外の決められた目的や役割を伴う場所だけでなく、人々の息抜きや関わり合いの場の必要性があると考えられる。

### 1.2 対象敷地

#### 1.2.1 対象敷地の概要

対象敷地は高知県高知市西部に位置する朝倉地区である。

現在の朝倉地区には高校や国立大学が立地しており、学生の姿が多く見られるほか、国立病院や住宅街により家族世帯から高齢者まで幅広い世代が生活している。主な土地利用は住居系であり、一部では農地と市街地が混在する地域特性を有している。

#### 1.2.2 都市計画道路

朝倉地区の朝倉曙町西横町には、昭和 46 年に指定された高知広域都市計画区域に基づき、都市計画道路が計画されている。

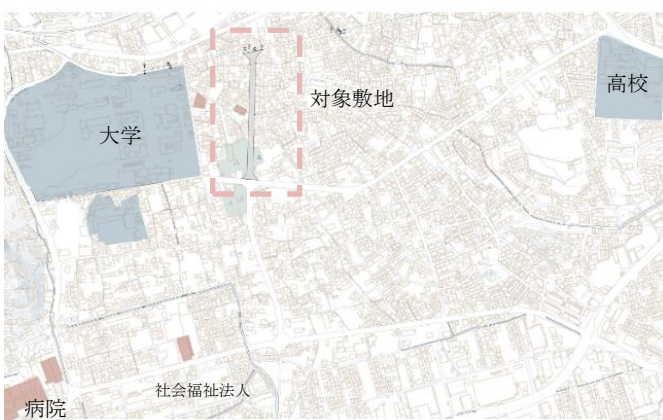


図 1. 敷地周辺

※国土地理院の電子地図に図形文字を加筆して記載

### 2.2.1 都市計画道路による影響

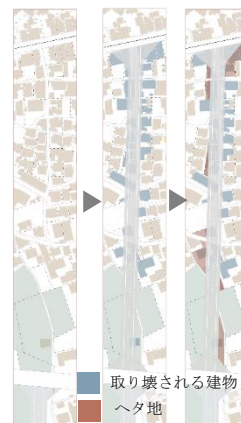


図 2. 計画道路によるへた地のでき方

都市計画道路とは、都市の発展や交通の円滑化を目的として、計画的に整備される道路である。

将来の都市の発展のために計画される道路であるが、都市計画道路が通ることによって地域の住宅や建物の取り壊し、立ち退きといった強制的な行為を必要とされる。

また、都市計画道路が通ることにより、敷地の分断や面積縮小により土地の利用価値の低

く、建築利用が困難な土地「へた地」と呼ばれる場所が発生する。現在社会の中でこの土地は空地や駐車場として暫定的に利用される事例が多く、都市空間として十分に活用されているとは言えない。

## 2. 目的

本設計では、都市計画道路から生まれる「へた地」を受け止め、「よりみち」によつての居場所づくりを目的とする。

人がふらっと立ち寄ることのできるサードプレイスとしての居場所の形成と、都市計画道路によって生じる建築利用が困難な「へた地」に着目し、その空間的特性を活かした新たな設計手法を構築する。

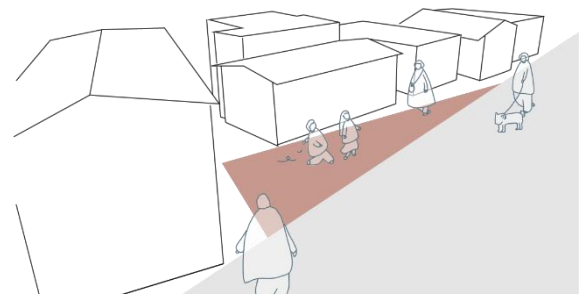


図 3. へた地によりみちへ

### 3. 設計指針

#### 3.1 「よりみち」から居場所へ

人々の日常的な生活動線の中に、息抜きや新たな出会いのきっかけとなる「よりみち」によって、個人の居場所づくりのみならず、まちの中のコミュニケーションの活性化となる場の創出を目指す。



図 4. 生活動線内のよりみち

#### 3.2 ヘタ地の活用

都市計画道路によって生まれる「ヘタ地」の形状を分析し、使いづらい形状をしたそれぞれの「ヘタ地」が持っているポテンシャルの向上を目指す。

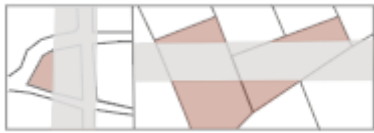


図 5. ヘタ地形成のダイアグラム

#### 3.3 「よりみち」と「ヘタ地」

本設計では、都市計画によってできる歩道と「ヘタ地」の2つをまとめて「よりみち空間」と呼び、「よりみち空間」の設計を通して居場所づくりをしていく。さらに、飛び地のように点在するヘタ地を連続的に設計することで、「よりみち」を介して居場所がまち全体へ広がっていく可能性を提案する。

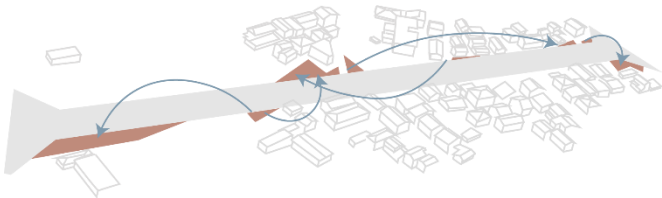


図 6. まちに広がるよりみち空間

### 4. 設計手法

本設計では、「よりみち」による居場所づくりと「ヘタ地」の活用の両方の設計手法を提案する。

「よりみち」ができる場とは、日常的に通る動線の途中で気軽に立ち寄ることができ、特別な目的や専門性を必要とせずとも、その時の気分や状況に応じて、多様な活動や人との関わり方を選べる場所である。この「よりみち」を成立させるため、空間的手法とプログラムの手法の両面から建築を構成する。

また、「ヘタ地」のポテンシャルを向上させる空間的手法から建築を構成する。

これらの3つの手法より、都市計画道路から生まれる「ヘタ地」のポテンシャルを生かし、「よりみち」によって居場所づくりを行う。

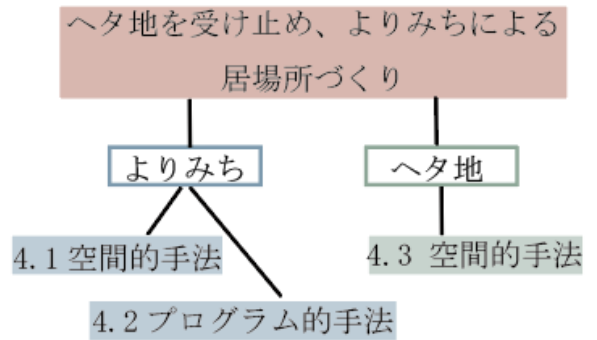


図 7. 全体設計手法

#### 4.1 よりみちの空間的手法

人間スケールに最も近い足元の設計により、人々をヘタ地に誘い込み、人々の滞在する空間をつくることによって、「よりみち」の建築空間を形成する。

地面から連続した足元のタイルを歩道にも展開可能であることで歩道から人を誘い込み、人々が滞在する場に屋根がかかる。

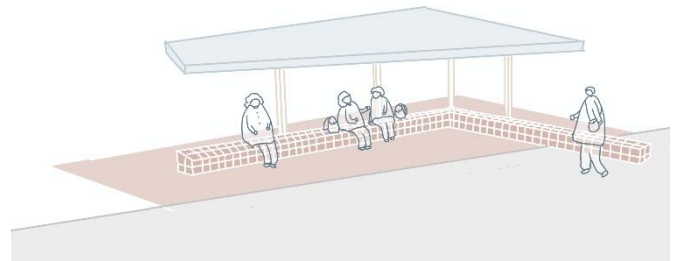


図 8. よりみちの空間的手法

#### 4.2 よりみちのプログラムの手法

この町では多様な活動が行われているのにもかかわらず、それらは十分に可視化・共有されておらず、地域に開かれた形で表明されていない。

これより、本設計は敷地から分解したサテライト型プログラムによって町の活動を地域に開き、「よりみち」の空間づくりを行う。

一つの場所に用途を固定する施設ではなく、機能や場を分散させることで、敷地内における属性や活動の固定化を避ける。その結果、属性の異なる人々が自然に混ざり合い、この道を通して町の活動や人の様子に触れられることができ、その時の気分や状況に応じて多様な活動や人との関わり方を選べる場となる。

#### 4.2.1 プログラムの課題

敷地周辺には、高校・大学、社会福祉法人、農家といった多様な主体が存在し、それぞれが独自の活動を行っているが、相互に連続され、地域に開かれた形で展開される場合は十分に整備されていない。

##### ① 高校・大学

近くのバカロレア認定高校は探求のために大学生の協力を必要としており、一方で大学生も研究対象として高校生との接点を求めている。

##### ② 社会福祉法人

高知市では社会福祉法人による「ほおちよけん相談窓口」が設置されているものの、認知度は7.2%と低く、十分に機能しているとは言い難い。また、都市計画道路の影響によりサービスが取り壊されるなど、福祉活動の持続性にも課題が生じている。

##### ③ 農家

農家分野では後継ぎ問題が深刻化しており、高齢者が集まる場や交流の機会が減少している。

#### 4.2.2 機能の分解

- ①(高校・大学)：自習の場 研究の場 発信の場
- ②(社会福祉法人)：子育て支援相談所 高齢者支援相談所 デイサービス
- ③ (農家)：作業場 加工場 販売所

#### 4.2.3 敷地周辺の情報

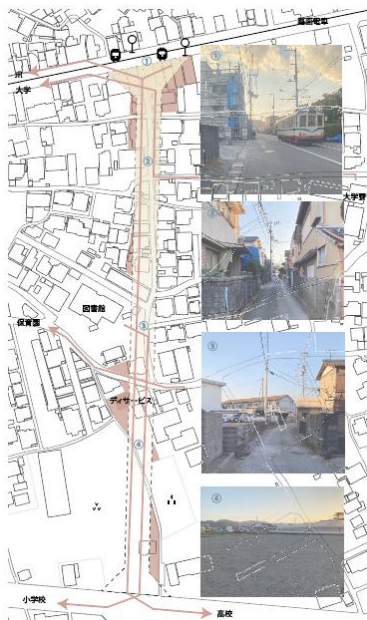


図 9. 敷地周辺の情報

敷地の北側は人通りが多いが、南側は農地が広がり比較的静かである。このように敷地の周辺の状況によ

って町の様子がグラデーションのようにになっている。

#### 4.2.4 配置

現在の様子より、以下のように機能が分解され、配置される。

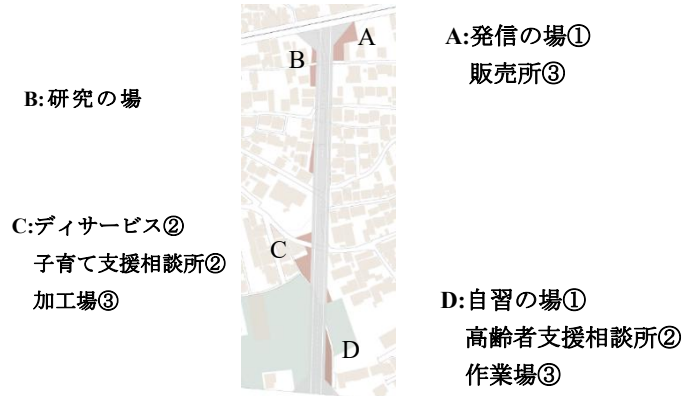


図 10. プログラムの配置

#### 4.3 ヘタ地の空間的手法

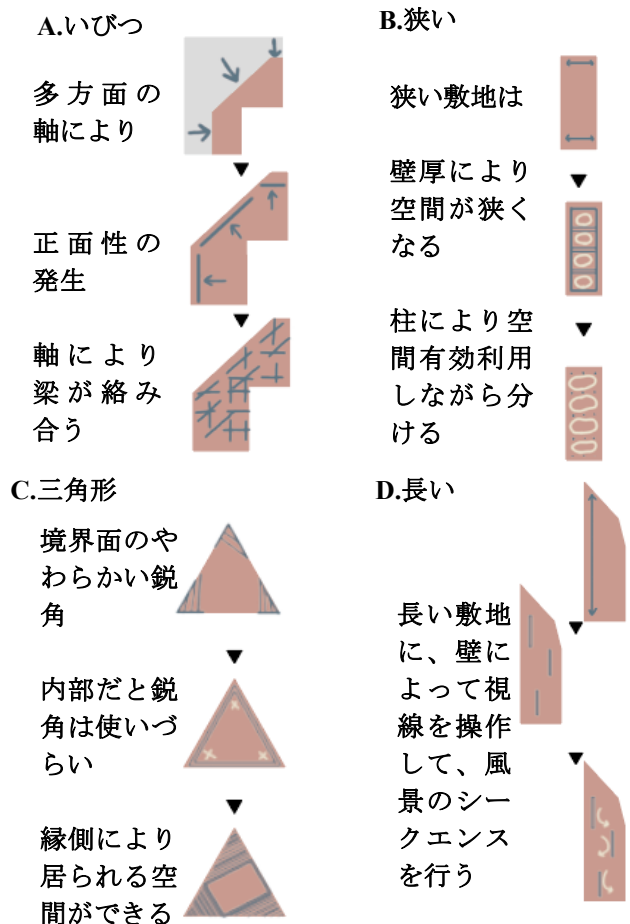


図 11. 各へた地の分析

## 5. 各設計

- ① **A** いびつ：めぐるよりみち～まちの活動を知る～  
プログラム：発信の場(高校・大学)

販売所(農家)

人通りの多いこの場所にいびつ型により、絡み合う梁で、めぐりながらまちの活動を知る。梁に高校・大学の発信の場のポスターや販売所の野菜がかかる。

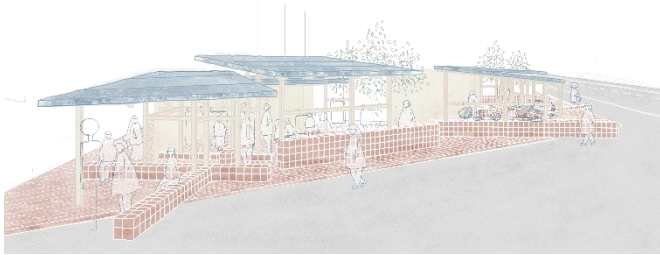


図 12. めぐるよりみち

- ② **B** 狭い：まざりあうよりみち～共創る～  
プログラム：研究の場(高校・大学)

高校生と大学生が狭い敷地の柱による空間の疎密によって、自然にまざりあいを起こす。

高校生と大学生が緩やかに混じり合いを起こし、研究のための交流を促す。

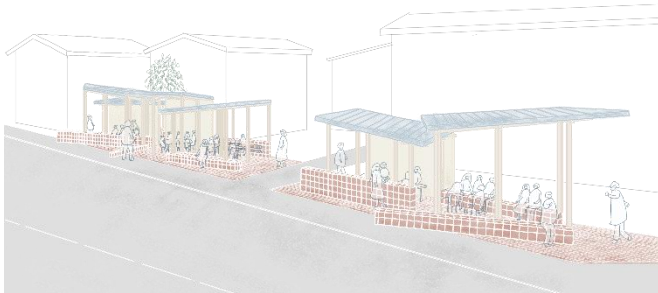


図 12. まざりあうよりみち

- ③ **C** 三角形：腰を掛けるよりみち～交流する～  
プログラム：ディサービス(社会福祉法人)

ディサービスの町に開かれた食堂(農家)  
子育て支援相談所(社会福祉法人)  
バス停

ディサービスの高齢者と地域住民が三角形の敷地広がる縁側によって、距離感を保ちながら腰を掛け、交流する。

ディサービスの食堂をまちに開かれたことによって起きるセキュリティの面を三角形の形の特徴により、歩道から奥まった場にはディサービスの裏側を配置。

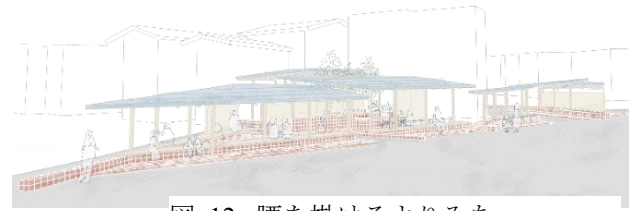


図 12. 腰を掛けるよりみち

- ④ **D** 長い：ながれるよりみち～地域性に触れる～  
プログラム：自習の場(高校・大学)

高齢者支援相談所(社会福祉法人)  
作業場(農家)

静かなこの長い敷地に壁により、地域の風景や活動を歩くことで流れるように体験する。

歩道からの空間を遮り、都市計画道路が通る前の風景を残している。

学生と農家が交流する場となり、後継者不足の手助けの場となる。

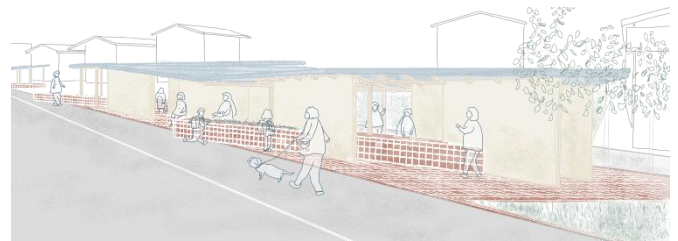


図 12. ながれるよりみち

## 6. まとめ

現代において、都市の発展のために行われる行為というのは、ときに地域住民にとって望ましいとは限らない。本計画の都市計画道路によってできる「へた地」を受け止めながら、「よりみち」によって人々に寄り添い、都市空間をより豊かなものへ更新するための提案である。

目的なくともふらっと立ち寄ることができ、属性や活動を限定せずに個人の居場所づくりから、まちの多様な人々が関わり合う空間づくりを目指す。

## 7. 参考文献

- (1) 都市計画道路情報. 高知市公式ホームページ「都市計画課」[オンライン](2025年10月)[都市計画課 - 高知市公式ホームページ](#)
- (2) 国土地理院基盤地図情報. 国土地理院[オンライン](2025年10月)[地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院](#)
- (3) 社会福祉法人の取り組み. 高知市公式ホームページ「地域共生社会推進課」[オンライン](2025年10月)[「ほおっちょけん相談窓口」に関すること - 高知市公式ホームページ](#)